

市町村林務担当職員への技術支援

総務課

北海道森林管理局では、市町村林務職員への技術支援を図るため、北海道森林管理局で開催する各種研修のうち基礎的な研修コースを中心に市町村林務職員への参加を呼びかける取組を昨年度から始めました。

平成28年度は1コースで募集し、8名の方に参加して頂き、平成29年度については、対象とする研修を4コースに増やし、延べ19名の方に参加して頂きました。（内容等は下表のとおり）受講者からは、「市町村業務ではあまり携わることのない内容で、林務の基礎を学べて良かった」、「森林の調査は森林組合に委託しているが、今回の研修で実際に調査を体験できて非常に良かった。今後、委託業務の検査等に活かせると思います」などの感想を頂きました。

平成30年度についても引き続き同様に実施する予定としています。



【森林の収穫】ドローンの操作実技



【木材の利用】木材工場見学



【森林の育成】コンテナ苗の根の観察

平成29年度に実施した研修メニューと市町村参加者

森林の収穫	森林の見方	木材の利用	森林の育成	研修名
10月10日～19日	9月12日～15日	8月22日～25日	7月19日～21日	実施時期
5名	6名	4名	4名	市町村参加者数
収穫調査（森林を伐採する前に行う調査）についての基礎的な知識及び技術の習得。 森林・林業の現場におけるドローンの活用について、知識及び操作技術を習得。	森林施業と植生について、基礎的知識及び技術を習得。	木材の利用用途や加工方法及び木材の販売方法や採材等の知識を習得。	造林・育林、治山、森林管理業務の基礎的知識及び技術を習得。	目的及び内容



北海道森林管理局の研修に参加して

紋別市役所産業部農政林務課 松本奈巳恵

△はつらつに

私は平成29年度に北海道森林管理局が開催した、職員向けの研修に延べ4回出席しました。研修についてお話しする前に、まず、研修に参加する経緯とその背景について説明をさせていただきます。

紋別市は、オホーツク海側に位置する人口約2万3千人の第一次産業（林・農・水）が盛んなまちです。かつて、昭和40年には4万人を超えていた人口は、鴻之舞金山の閉山や、排他的経済水域の設定などの要因により、昭和45年には3万5千人までに減り、その



後も人口は減少し続けています。

▽森林認証取得

第一次産業の衰退は、地域の衰退に直結します。林業の振興による地域の活性化を目指して、平成15年頃より網走西部流域(雄武町、興部町、西興部村、滝上町、遠軽町、湧別町、紋別市)では、森林認証による木材のブランド化に向けて、勉強会を開催するなどの取組を始めました。

その後、紋別市内の1企業取得により始まった森林認証の取組は、地域間の連携、大手企業の協力、そして国有林、道有林での認証取得が進んだおかげで、平成19年度には日本一の認証工リアを形成することができました。

それと同時にCOO認証※の取組も進み、認証材を供給する体制は整いました。

▽一般消費者に向けたPR

しかしそれだけでは、地域材のブランド化にはなりません。消費者に「森林認

証材」を選んでもらう必要があります。

そのため、地元や首都圏・札幌圏等の大消費地へ向けた情報発信をするなど、様々な取組を行い、一定の成果を得る事はできたと思えます。しかしながら「林業による地域活性化」の目標には更なる一手が必要でした。

そんな折、聞こえてきたのが、「林業成長産業化地域創出モデル事業」です。

▽林業成長産業化地域創出モデル事業について

事業への応募は、とても厳しい戦いになりましたが、関係者の多大なる協力により、平成29年4月28日付けで網走西部流域地域が全国16地域の1つとして選ばれました。

応募書類を作る段階から、「地域としての考えや、やりたいことはある。しかしこれは国の施策と同じ方向を向いているのか。5年後の事業完了時に胸を張って示せる成果になるのか」という不安があり、採択後も

その想いを抱いていました。そんな最中、地元の森林管理署より、国有林職員の研修に参加する市町村職員の募集があるとお声がけを頂きました。

▽研修に参加し

このように、「モデル事業を進める上でのヒント探し」も研修参加の目的の一つでしたが、一方で林業の基礎的知識を身に着きたいという想いもあり、7月の基礎B研修から始まり、8月の木材利用、9月の基礎A研修、10月の基礎C研修と4回にわたり研修に参加をさせて頂きました。

市町村職員の林業担当者は「一般事務職」で採用された職員が多く、林業関係部署に知識が無いまま配属され、「しっかりと林業を学ぶ」機会は用意されていません。そういった意味でも、今回の研修に参加し、講義を受けたり、現場を見る機会に恵まれたことは、大変貴重な体験になりました。

特に、コンテナ苗用植穴

堀機の体験、バイオマス発電所の見学、ドローンの操縦体験など、最先端の知識や技術に触られた事が印象に残っています。

また、モデル事業に役立つ情報や林業の基礎的知識を集められた事も大きいですが、それ以上に、国有林の若手職員の方々と知り合いになれた事が一番の成果だと思えます。

山に携わる者に境界はありません。本来であれば国有林も民有林も関係なく「山の管理を行う者同士」だと思えます。

今回、研修に誘って頂き、大変嬉しく思いましたが、今後も情報共有を図りながら一緒に頑張って、「豊かな

自然環境」と、「持続的な木材の生産、森林に関わる人の生活を守る経済性」との両立を図っていければと考えております。

最後になりますが、研修参加にあたり、お世話になった皆様、準備を進めて下さった総務課の皆様、そして研修と一緒に参加し、暖かく言葉をかけて下さった皆様、本当にありがとうございました。

※COO認証：認証を受けた森林から産出された木材、及び木材製品を加工・流通の段階でそれ以外のものと適切に区別して取り扱う体制になっていることを認証する制度



グループに分かれて地林況調査結果を取りまとめ



エンジン式の穴掘器による植穴掘りを体験